

川越市は、埼玉県の西部地域、都心から 30 キロメートル圏域に位置しています。人口 35 万人を擁する川越市は、商品作物などを生産する近郊農業、交通の利便性を生かした流通業、伝統に培われた商工業、豊かな歴史と文化を資源とする観光など、充実した都市機能を有した県西部地域の中心都市として発展を続けています。ユネスコ無形文化遺産である「川越まつり(川越氷川祭)」は、370 年以上の歴史を誇る日本屈指の伝統祭礼であり、年間 700 万人もの観光客を惹きつける川越市のシンボルです。しかし、近年の少子高齢化や地域コミュニティ(各自治町内会)の繋がり希薄化に伴い、「山車の曳き手不足」「伝統技術・囃子の継承難」といった構造的課題に直面しています。川越市役所職員有志が「川越まつり部」を発足させ、職員が職務の枠を超えて地域社会へ飛び込むことの目的、具体的な活動内容、そして市民との協働を通じて得られた効果(地域活性化および職員の意識改革)について検証し、これからの協働のまちづくりにおける自治体職員のあり方の一例になると期待しています。

行政と地域の協働の新たなカタチ

— 川越市役所職員による『川越まつり部』の試みとその波及効果 —

埼玉県本部／川越市職員組合 成岡 英一郎

1. はじめに

(1) 川越まつりを取り巻く現状

① 伝統継承の危機と担い手不足

川越まつりは、370 年の歴史を誇る川越市の象徴的な伝統文化であり、地域のアイデンティティそのものです。しかし近年、少子高齢化や地域コミュニティのつながりの希薄化に伴い、山車の運行やお囃子の担い手不足が深刻な課題となっています。祭りの維持は各自治会の自助努力に委ねられていますが、既存の住民だけでは伝統を維持することが困難な状況が生じつつあります。

2. 「川越まつり部」発足の目的

(1) 自治体職員の主体的な地域参画

① 「顔の見える関係」の構築： 普段は窓口や文書越しでの接点しかない市職員が、法被(はっぴ)を着て祭りに参加することにより、住民との間に強固な信頼関係が生まれる。これは災害時や日常の地域課題解決における円滑な合意形成の基盤となります。本活動の最大の目的は、市役所職員が単なる「行政の人間」としてではなく、一人の「地域住民・市民」としてお祭りの運営に深く関わることです。職務時間外の自主的な活動(部活動)として「川越まつり部」を発足させることで、行政の立場では見えにくかった現場のリアルな課題を共有し、市民と目線を合わせた協働のまちづくりを実践

することを目指しました。

(2) 地域の伝統文化の次世代への継承

① マンパワーの提供と技術の修得：もう一つの目的は、深刻化する山車の曳き手不足に対し、若手職員を中心とした強固なマンパワーを提供することです。単なる労働力の提供にとどまらず、職員自らがお囃子や山車運行の技術を学び、将来的に祭りを支える中核的な人材となることで、文化の持続可能性を担保することを狙いとします。

3. 具体的な活動内容

令和7年4月13日

川越市職員有志にてまつり部を同好会として結成。

7月11日 まつり部会結成集会

7月26日 川越夏まつり(百万灯まつり)鉄砲隊行列への参加

9月17日 第一回川越まつり勉強会(観光課と合同)

9月26日 第二回川越まつり勉強会(観光課と合同)

10月18日、19日 川越まつり当日

川越市所有 猩猩の山車運行

令和8年1月18日

まつり部会反省会

4月2日

川越市職執行委員会の承認を受け川越まつり部として正式に発足。川越市職員の福利厚生活動として川越市職員組合をとおして市職と川越市からクラブ補助金支給。

7月25、26 川越百万灯夏まつり

10月 中旬川越まつりに参加予定。

4. 活動がもたらした効果

(1) 地域コミュニティへの波及効果

① 市民と行政の距離の短縮

職員が汗を流して山車を曳き、市民と共に汗を流す姿は、地域住民に大きな安心感を与えました。これにより「行政は遠い存在」という壁が取り払われ、住民側から「実は地域のインフラで困っていることがある」といった、本音の地域課題が気軽に相談される関係性が構築されることが期待されます。これは地域コミュニティの活性化における大きな効果です。

(2) 職員の意識改革と組織への効果

① 政策立案能力の向上と職場の活性化

部活動を通じて地域の現場を体感した職員は、机上では得られない「生きた地域の課題」を学ぶことができます。

地域理解が深まり、現場のニーズに合致した「生きた観光施策・地域活性化施策」が立案可能になり、現場感覚を持った優秀なマネジメント人材へと成長することが期待されます。

② 縦割り組織の打破と横の繋がり創出：福祉、土木、税務、総務など、通常業務では関わりの薄い異なる部局の職員が集うことで、庁内コミュニケーションが活性化し、複眼的な視点を持つ職員の育成に繋がります。他部局の職員とのネットワークが広がり、部署の垣根を越えた若手からベテランまでの職員が「まつり」を通じて結束することで、市役所内部の縦割り打破や風通しが良くなることで、モチベーション向上という副次的な効果も生まれています。

5. おわりに

(1) 持続可能な活動に向けた展望

① 他団体との連携とモデルケースの確立

今後は、この「川越まつり部」の取り組みをベースに、地域の大学や民間企業とも連携を広げ、官民学が一体となった伝統継承のプラットフォームへと発展させる必要があります。自治体職員がプライベートでも地域を支えるこのモデルは、全国の伝統文化継承の課題に対する一つの有効な解決策になり得る可能性があります。

川越市職員による「川越まつり部」の発足は、職員の「人間力・地域対応力」を飛躍的に高め、地域社会の維持発展に多大な貢献を果たすポテンシャルを秘めています。「小江戸・川越」のアイデンティティを体現する先進的な試みとして、今後も活動が期待されます。

<https://youtu.be/4tPsUsJbZNM?si=d4baqWnhq9hRjauM> (川越まつり紹介動画)